

～高速高品質コンテンツ配信を実現する自律適応型メタコンテンツ・ネットワーク技術に関する研究開発～

委 託 先：住友電気工業(株)

研究代表者：西本 裕明

研究期間：平成14年10月～平成17年3月

主な研究実施場所：東京都港区、大阪府大阪市

研究成果：本研究開発当初、IPネットワーク上で映像・音声配信サービスを検討する事業者にとって、高品質で乱れのない映像配信を実現するQoS技術が課題となっていた。

本研究開発では映像・音声品質を担保するための誤り訂正方式を各種調査、試作、評価することで映像配信サービスにおいては10%程度のバースト的なパケット欠損が発生しても受信機のCPUに極端な負担をかけないRaptor方式がその時点での最適解であることを確認し、標準化（ITU-T FG-IPTVおよびIPTV-GSI）に於いて寄書提案しITU-T H.701

Recommendationの一部としての勧告に結びつけるとともに、受信機を製品化。実際の映像配信サービスで採用された。

研究成果説明図：



誤り訂正機能無しではパケット欠損時に映像・音声の乱れが発生する

誤り訂正機能でパケット欠損による映像乱れを回避



本研究開発では複数の誤り訂正方式の中でもDF Raptor™方式が誤り訂正性能及び受信機側のCPU負担が少ないため採用